

RI第2510地区

# 留萌ロータリークラブ

# 会報

2012 ▶ 2013  
WEEKLY REPORT



奉仕を通じて  
**平和を**

田中作次

2012-13年度  
国際ロータリー会長

留萌  
ロータリークラブ  
会長目標

ロータリーを楽しく・  
学び・奉仕しよう

会長／山本讓二 幹事／森 幹雄

## プログラム

- 本日  
来賓卓話  
留萌市コホートピア推進室 主査 橋本るみ子様
- 次週予定  
来賓卓話 留萌地方特別支援教育連盟南部ブロック  
太田 徹 校長／西野 珠美様

- 会員誕生日
- 2月7日 高田 潔
  - 2月8日 鵜城 善輝
  - 2月10日 松村 孝二

No. 2545

第29回 2月6日

出席報告

前例会

会員総数……………42名  
出免会員……………10名  
出免出席……………5名  
基準会員出席……………22名  
出席率……………70.27%

前々々

第26回 1月16日

欠席会員……………12名  
内メイクアップ……………6名  
修正出席率……………82.05%

例会／毎週水曜 12:15～13:15 留萌産業会館2F



## 会長報告……………

1. 社団法人留萌青年会議所より、新春の集いの礼状をいただきました。
2. 第1グループIMの第1回目の実行委員会が1月28日に開催されました。高田委員長の指導力が十分発揮され、準備万端でございました。



## 幹事報告……………

- 赤平RC、芦別RC、砂川RCより2月の例会案内を受領しました。
- 「拔萃のつづりその七十二」の寄贈をいただきました。

ゲスト

北海道議会議員 石塚 正寛様



## 3分間情報……………

会員研修委員会

福士委員長

「未来の夢計画」

前は未来の夢計画の目的を発信いたしましたので、今日はその目的を達成するための助成金の構成、プログラムについて発信します。

プログラムを達成するための新しい助成金の構成

〔助成金〕

1. 新地区助成金
2. グローバル助成金  
○クラブ&地区計画助成金

○パッケージ・グラント

ロータリー財団が協力組織と提携して長期的な大規模のプロジェクトを立案し実施するものです。

新地区補助金もグローバル補助金も三つの活動に分けられる。

1. 人道的補助金プロジェクト（新地区補助金は教育的プロジェクトも実施することが可能）
2. 奨学金
3. 職業研修チーム

グローバル補助金6つの重点分野（主として、発展途上国を対象とした人道的プログラム）を設定しています。

1. 平和と紛争予防／紛争解決
2. 疾病予防と治療
3. 水と衛生
4. 母子の健康
5. 基本的教育と識字率向上
6. 経済と地域社会の発展

今回は助成金の資金の支給方法等について発信いたします。

【三二情報】

確定申告書の提出が2月18日から始まりますが、特定株式に係る譲渡損失の繰越控除の特例適用を受ける場合には、株式等に係る譲渡取得等の金額がない年分も含めて連続して一定の書類を添付した確定申告書を提出する必要がありますのでご注意ください。

 ニコニコBOX .....

- ちょっと良い事がありました 山本会長
- 山本、渡邊会員より寸志をいただきました

鈴木会員

前 回	471,000円
今 回	4,000円
累 計	<u>475,000円</u>

 プログラム .....

来賓卓話「北海道の課題について」

北海道議会議員 石塚 正寛様

只今紹介をいただきました石塚でございます。政審委員長と紹介を受けましたが、セイシンと言われますと、メンタルな委員長という感がございますので説明させていただきます。政審とは、自民党道議会の政策審議委員会の事で、この委員長を務めさせていただいております。ここは自民党道議会の政策を作っている所でございます。

私は昨年1年間、365日中200日弱札幌におりまして、その内135日が札幌に泊まっておりますので、ほとんど単身赴任の状態でございます。しかし物は考えようで、自分の思っている事や考えている事がかなり道政に反映させられるという充実感を持ちながら仕事をしていますところでございます。

毎年この様に例会にお誘いいただきまして、ありがとうございます。今日は、「北海道の課題について」ということですが、その前に、昨年もここでお話しし、その前の年もお話した中で「今この様なことに取り組んでいますとか、北海道はこの様に考えています。」という事を何点かお話をさせていただいております。それが今どの様になっているのかを、皆様に途中経過やその結果をご報告するべきと思ったものですから、今日はまず、北海道の課題をお話する前に、昨年、一昨年に皆様にお話した内容を交え、皆様のお手元に配った資料に基づいてお話をさせていただきます。

まず最初に、道営住宅の今後の予定について掲げさせていただきました。

今、栄町に昨年の4月から5階建ての道営住宅が建設されています。この住宅は29戸を建設中で、これは順調にいきますと3月の下旬頃からの入居が可能になると思います。これにつきましては、今週から入居の受付が始まっております。そしてこれから第2期工事が始まりますが、これは平成25年度着工の工事で、残りの20世帯分の工事ですが、昨日1月29日から入札が

始まっております。これは、建築の仕事、電気、設備、これらの仕事を合わせて総工費約3億円位になると思われます。昨年も言いましたが、これらの道営住宅の工事は留萌の業者さんで十分出来ると思いますので、留萌の業者さんで頑張ってください、落札していただき、留萌の色々な業者さんの協力を得ながら完成させていただければと思います。これらの工事は、雪解けから着工して来年の3月頃に完成となると思います。そうすれば、栄町に49世帯の方々が入居をされますが、その内訳は高齢者だけの世帯が10戸、中学生以下の子育てをされている世帯が対象で10戸、残りが一般の家庭となっております。これが完成しますと、商店街や街の中心街を子供をつれたお母さん方が散歩をしたり、あるいは高齢者の方々が商店街を散策したり、買い物をしたりと、地域の中心部の賑わいに寄与できれば良いなと私は思っている所です。

次に、2点目の公共事業の今後の展開について少しお話をさせていただきます。

平成24年度の国の大型の補正予算が出されました。総事業費約20兆円で国の予算は約13兆円位です。これに対して北海道も大型の補正予算を検討し、約1500億円を予定しております。この補正予算の内1240億円が公共事業費としております。よく新聞で道庁が公共事業費をいくら組んだと書かれておりますが、それは大きく分けて3つの予算に分かれております。

1つは国の事業に対する負担金と呼ばれるもので、今回は約220億円。それと2つめは、道の補助事業費。今回は約690億円。そして3つめは、道の単独事業費。今回は約330億円となっております。

これらはどういう事かと申しますと、1つめの負担金は、国が行なう仕事で、留萌でいうと開発建設部さんが発注する仕事で、国がお金を出してやるけれども、何割かは北海道で負担をなさうという意味です。例えば国道を作るときは約2割を北海道が負担をいたします。10億の国道を作る工事では8億は国が出してあげるのです。2億円は北海道で出さなさいという意味です。そういう意味で今回補正予算を220億円



組んだという事は、国の事業ベースで1100億円位の公共事業が組まれた事になります。

次に道の補助事業というのは、国からの補助金をいただいてする事業ですが、だいたい半分を国から頂いて道が発注をする工事です。例えば北海道の農業の工事を行なったり、道が管理する道路を直したりする工事です。今回690億円の半分ずつを国と道が出し合い、事業を行います。最後に道が工面して直接お金を出す単独事業ですが、これが今回の補正予算で約330億円を計上しております。ですから整理いたしますと、今回の補正予算は国と道を含めると総事業費が2100億円位になります。この補正予算は2月7日に臨時の道議会を開く予定になっておりますので、この時に議決をして直ぐに、工事発注の手續きにかかる事になります。

ただ北海道はご存知の通り2～3月はほとんど工事が出来ませんので、2～3月に入札を行い、雪解けを待って工事を行なう事になります。ただ、これらの大型の公共事業予算を組むのは良いのですが、一時的な公共事業予算を組むのではなく、少なくとも中期的な事業予算の目途をつけるよう国に要請をしております。国、北海道に於いても、毎年公共事業費を減らしてきておりますので、建設会社さんは職員を減らし、機械も処分してしまっている業者さんがいると聞いておりますので、今回この様に大型の事業予算を組んだとしても果たして対応出来るのかが心配されます。

ですから、今年だけドサッと公共事業費をつけて事業を増やすのではなく、せめて今後5年くらいは公共事業費はこのくらい事業費を確保しますよと国が言ってくれば、各事業所さん

## 第28回 1月30日(水) 天候/晴

も新規採用も考えますし、設備投資も進むと思えますので、私たちの仲間が今回国会議員に多くなりましたので、1月にあった会合で道議会として国会議員の皆様をお願いした所でございます。

補正予算で仕事を増やしてくれるのは良い事ですが、単年度で終わるのではなく、中長期にわたって事業の平準化が計ればそれの方が良いという事をお願いしましたので、国の方にそれが伝わってくれると信じております。

次に留萌管内の道路網の整備についてです。これは、留萌から天塩町に向かっていく国道232号線の代替道路をどうやって確保していくかという問題です。東日本大震災のような大きな津波がきたり、地震やその他の災害になった場合、このあたりは被災する可能性が大きく、代替道路も無いのが現状でございます。北海道の基本的な考え方は、道路整備は交通量や費用対効果だけで判断するのではなく、メイン道路が寸断された場合に迂回道路の整備により、①陸の孤島としない。②迂回時間を1時間30分以内とする(物資輸送などを考慮)。としており、この2つのポイントを考慮に入れて検討しております。

例えば留萌管内でいいますと、留萌と増毛町の間が寸断されると代替道路がございません。そこで、留萌ダムの奥の道路は通行止めになっておりますが、そこを2.4~2.5km進むと北竜におつかります。そこで、ここに道路を作ると、増毛留萌間が寸断されてもここを回れば約1時間位でいける事になります。また、留萌と小平町の間が寸断された場合は、一昨年に萌平トンネルが出来ましたので、春日町から萌平トンネルを抜けると小平の本郷に抜ける事が出来ますので、留萌と小平町の間は大丈夫だと判断がされています。また、小平町と力昼の間は寸断されると、達布から霧立峠を回って古丹別を下ってこなければなりません。それには約1時間30分位かかります。そこで苫前小平線という道路がありますが、これはまだ繋がっておりません。あと10km位ですがこれを繋げると迂回道路としては1時間位で小平から力昼まで行

けます。この様に一つ一つ検討していただいております。

昨年9月に、留萌地方道路防災連絡協議会を設置(これには留萌開発建設部の担当者や道の担当者、市町村の担当者も入って検討をしております)。この検討は今年3月までに調査を終了し、報告書が提出されます。

次に中国への木材輸出戦略についてですが、昨年この例会にて留萌の港を使って中国の東北3省との交易をお話しさせていただきました。

私は昨年5月に、中国遼寧省吉林省を訪問させていただきました。その報告をさせていただきます。当初、私が北海道で情報を得ていた限りでは、中国の東北の方では農水産物や或いは環境問題がクローズアップされているので、ペットボトルを大量に欲しいという情報があったものですから、最初はその思いで訪問をさせていただきました。長春という人口700万人位の街の商務局長さんに会い、出来れば木材が欲しいと言われました。どういう事かと申しますと、中国東北部はロシアから木材を輸入していたのですが、10年位前まではロシアからの木材輸入が50%を超えていたのですが、なかなかロシアとの付き合いは難しいようで、ワイロが横行していたり、通関の手続きが非常に不明確なこともございまして、中国としても、とてもロシアに頼っている訳にはいかないという事で、ここ数年前よりロシアとの取引を減らしてきていまして、現在ではロシアから約30%、残りは何と、アメリカやニュージーランドから原木を輸入している現状がございまして、わざわざアメリカやニュージーランドから輸入する位なら留萌の港から行けば全然近いねという事で、私たちは帰ると直ぐに道庁にもお願いをしたりして、北海道の木材はどの程度有るのか、供給できるのか調べて頂きました。

(次週へ続く)